

元気な企業をつくる!

the Heartful

OAG

Vol. 168

2019年4月号

2019年3月25日発行

- 02 太田孝昭が語る春夏秋冬
「挑戦者求む」
- 03 全社員が対象の「OAG Challenge Award 2019」を創設!
- 04 企業の安定的な発展のために
内部不正の調査結果が示す対策の必要性
OAG監査法人 大阪事務所 辻 泰崇
- 06 OAGグループの経営計画発表会を開催しました
- 07 私のOff-Time
- 08 今後のセミナー開催予定



30th
CHALLENGE



「挑戦者求む」

OAGグループ代表
太田 孝昭

昨年、30周年を迎えるにあたって、「チャレンジ30」をテーマに据えました。それは、AI・バイオ・遺伝子操作・iPS細胞・人間の能力を超えるロボット等、一昔前ならマンガの世界であったものが、次々と実現していき、しかもそのスピードが格段に速くなり、全ての変化が相互に影響しあって押し寄せています。

我々会計事務所業界もAIに取って代わられると、周りの人々は言うております。現に、マネーフォワードやフリー（両社とも会計ソフトの会社で上場企業であったり、大会社が資本等を入れたりしています）は、会計事務所の脅威です。ついそこまで、AIが迫ってきている感があります。

これは何も、会計事務所業界だけではありません。人間が必要なくなるという訳ではありませんが、従来の人がやっていた仕事はおおよそAIに置き換えられると考えておいた方が良さそうです。

そうすると、仕事の中身を変えていく必要があります。しかし、このことがピンと来ているかというと、そうでもありません。

そこで、「チャレンジ30」を実行に移すべく、広く社員に呼び掛けたものが、標題の刺激的なタイトル「挑戦者求む」です。

この「挑戦者求む」で最も有名なものが、1914年にロンドンの新聞に掲載された広告です。「求む男子。至難の旅。

僅かな報酬、極寒、暗黒の長い日々、絶えざる危険、生還の保証無し。

ただし、成功の暁には名誉と賞賛を得る。——アーネスト・シャクルトン」

この広告は、南極点に行こうという、大冒険行の団員募集広告です。当時、南極は未到の地です。氷点下何十度にもなり、かつオーストラリアの2倍の面積を持つ大陸です。無謀な冒険といわれてもしかたないかもしれません。しかし、この広告でロンドン中が湧き上がり、採用面接には長蛇の列が出来たそうです。

シャクルトンの冒険行とは比較にはなりません、OAGもチャレンジしなければ生き残れない訳です。そこでこのような刺激的なタイトルにして、社員全員のチャレンジ精神を奮い立たせようと思ったのです。

運動は、往々にして運動で終わりがちです。それでは、何にもなりません。「結果が全て」。それが経営なんですね。

全社員が対象の「OAG Challenge Award 2019」を創設!

OAGは昨年創業30年を迎え、新たにグループ全体のテーマとして「チャレンジ」を掲げました。次の30年を見据えたとき、AIが人間の知能を追い越して世界を激変させていることは間違いありません。今後もOAGがお客様の新しいチャレンジをサポートするためには、OAG自身が環境の変化に対してチャレンジし続け、お客様と共に成長していく必要があります。

そこで、「チャレンジ」を実践するために、社員自らが提案・実行し、その成果を表彰する「OAG Challenge Award 2019」を創設しました。グループの全社員（パート・アルバイトを含む）が対象で、会社・部門の枠を越えて3人以上のチームを作り、3月31日までにエントリーします。4月から半年間活動した成果を11月にOAGグループ取締役会で選考し、選出されたチームは12月にOAGグループの全社員が集う「OAGミーティング」で発表後、社員投票によって優勝チームを決定します。

チャレンジは、行動につながらなければ意味がありません。そこで、ポスターも作り、社内のいたる所に貼って、取り組みへの意識を高めています。どのようなテーマが実践され、皆さまのお役に立っていくのか、私達もとてもワクワクしています。ぜひ皆様も新しいチャレンジをしてみてください。

OAG Challenge Award 2019

▶ 創設の目的 ◀

- チャレンジしやすい環境を作る → 自ら主体的に行動する組織へ
- チャレンジを讃える風土を作る → 失敗を恐れない組織へ
- チャレンジを通してコミュニケーションを活発にする → 連携力の高い組織へ

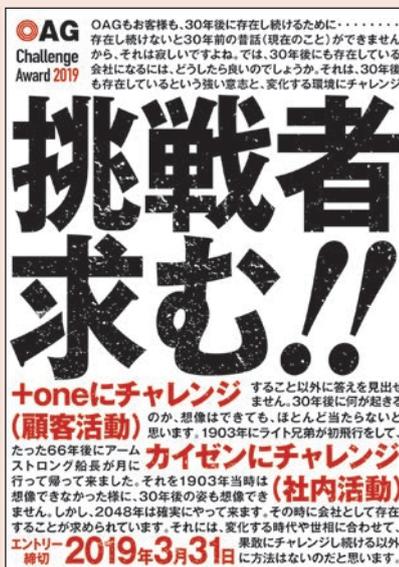
▶ チャレンジテーマ ◀

『プラスONE』にチャレンジ
(顧客活動)

OAGのビジョンである「プラスONE」の実践

『カイゼン』にチャレンジ
(社内活動)

生産性向上に向けた業務改善・効率化活動



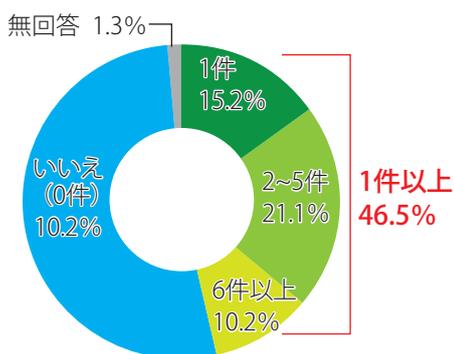
企業の安定的な発展のために 内部不正の調査結果が示す対策の必要性

OAG監査法人 大阪事務所 辻 泰崇

近年、さまざまな企業で不正が発覚し、メディアを騒がせています。特に、日本では根底に性善説があり、不正対応が事後的になりがちです。「我が社に不正はない」「不正をするような従業員は採用していない」というお話もよく伺いますが、現実にはいろいろな不正が発生しています。今号では、不正の実態や影響、具体的な対策などを考えていきます。

企業規模や業種を問わずに発生している「社員による不正」

解体工事業者の社員が17年間に渡り総額5億円も横領してミッキーマウスをモチーフにした家まで建てたという事件や国際ロマンス詐欺で騙された医療法人の経理担当者が数カ月間で1億円を横領した事件など、大企業だけでなく中小企業、医療法人、社会福祉法人等でも巨額の不正事件が発生しています。過去3年間に不正が1件以上発覚した企業は46.5%に達しているという調査もあり、不正事件は他人事ではありません。



■ 調査対象企業の従業員数

	回答企業数	構成比 (%)
100人未満	56	18.5
100~300人未満	55	18.2
300~500人未満	29	9.6
500~1,000人未満	61	20.1
1,000~3,000人未満	59	19.5
3,000~5,000人未満	25	8.3
5,000~1万人未満	10	3.3
1万人以上	8	2.6
合計	303	100.0

出典: Japan Fraud Survey 2018-2020, デロイトトーマツFAS(株)

不正は「人間が自身をとりまく『環境』の影響を受けて、良心の呵責を抑えて起こしてしまう」=「人間の本質的な弱さによって発生する」ものです。「真面目な社員でも不正に手を染める可能性がある」という点に留意する必要があります。

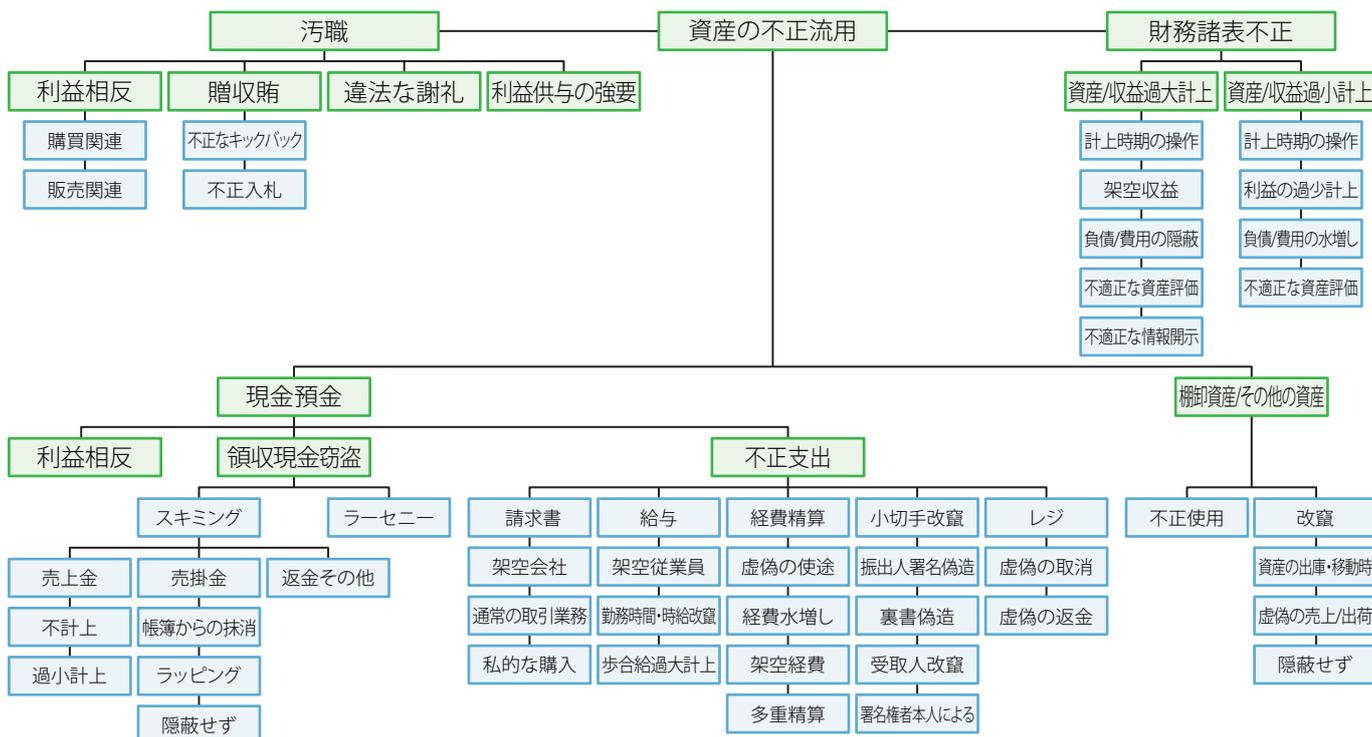
不正が発生する本質的な原因は、「人間の持つ本質的な弱さ」

「人間が働いている」という点は、すべての企業に共通する

すべての会社で不正は起こり得る

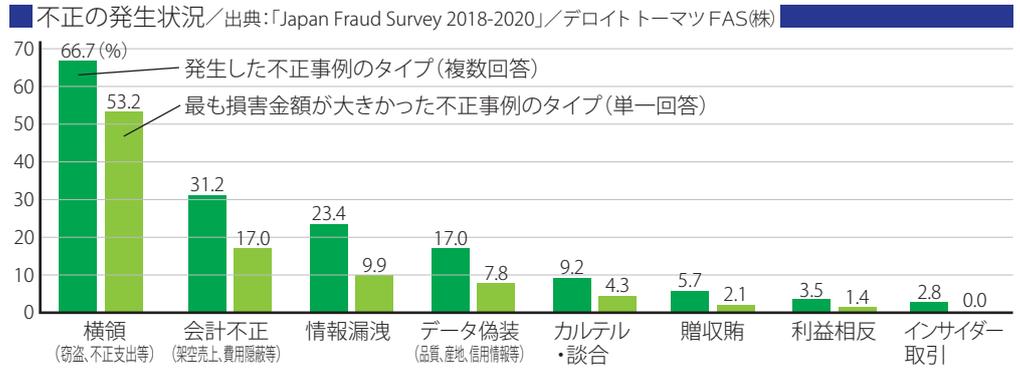
不正の実態は多種多様

日本公認不正検査士協会 (ACFE JAPAN) では、以下のように不正を体系化しており、数多くの種類があることが分かります。



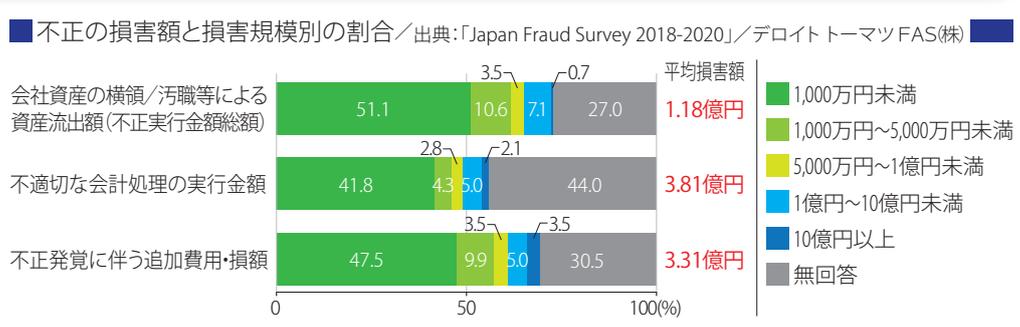
出典:「REPORT TO THE NATION 2018年度版」/ACFE JAPAN

不正の発生状況の調査では、右図のように圧倒的に「資産の横領」が多く、過去数年の調査結果からも同様の傾向が見られました。内訳を2014年のデータで見ると、窃盗（現預金、在庫）37%、不正支出18%、売上入金11%でした。横領は不正の中でも特に発生しやすく、損害額が大きいことにも注意が必要です。



実損額だけでは済まない不正の影響

横領等の不正は長期間継続することが多く、1回ごとの金額が少なくても、結果として損害額は膨れ上がります。また、不正が発覚すると、実際の損害額に加えて、調査や対応するための人件費等さまざまな追加コストや風評被害などの二次被害も発生します。



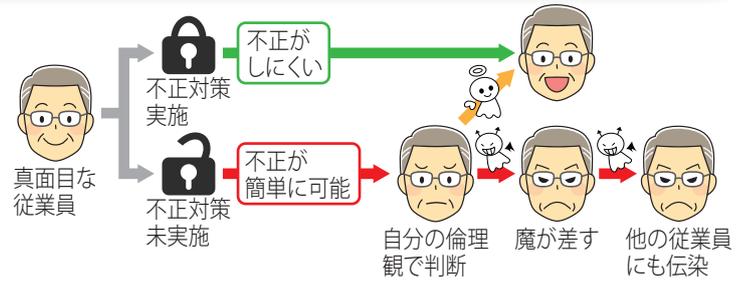
不正が潜在的で発覚していない場合には、不正を行っている従業員以外にも悪影響を及ぼしかねません。右図のように、不正（特に横領）が行われている環境では、他の従業員にも伝染していく傾向があります。不正を早期発見する体制などが不可欠で、それが従業員間の伝染を防ぐことにもつながります。



社内の不正防止体制の構築が必要

不正は「人間の持つ本質的な弱さ」によって起こる以上、企業に不正防止体制がなければ、従業員各自の倫理観に頼るしかありません。それは、従業員に負荷を掛けている状態です。企業には、魔が差さない仕組みや迷ったときに依拠できるルール、不正を早期発見する体制などが不可欠です。

実際の不正対策では、不正が起こらないようにする「守りの対策」と調査等により積極的に不正を発見する「攻めの対策」を一体的に行う必要があります。



守りの対策		攻めの対策	
内部統制の構築	社員間、上司によるチェック体制	定期的な実査	現金、現金同等物、固定資産等の現物を確認
各種規程の整備	企業理念、行動指針等による心理面からの抑制	現場への立会	棚卸の立会等、従業員の業務を観察
業務体制の検討	業務の「見られる化」、ジョブローテーションの実施	証明書の入手	金融機関や債権債務の残高証明書を入手

《内部統制の構築と多面的な不正防止対策はOAG 監査法人におまかせください》

豊富なノウハウと多角的な視点から、お客様の最適解を導くコンサルティングをご提供しています。医療法人・社会福祉法人等、非営利会計分野においても、非常に高い専門性を有しております。

お問い合わせ先 OAG 監査法人 ☎ 06-6310-3200

OAGグループの経営計画発表会を開催しました

グループ内の情報共有の場として、OAGグループ各社のマネジャー層を集めた経営計画発表会を開催しました。OAGグループは、お客様の多くのご要望や課題に応えるために、さまざまなサービス領域に進出し、ワンストップサービスを提供できる環境を作

OAG グループ



代表 太田孝昭

てまいりました。お客様を取り巻く環境が激変を続ける中で、お客様に最適なサポートを提供し続けるためには、グループの各社が自立すると共に、連携を強化していくことがますます求められています。そこで、グループ内でどの様なシナジーを生み出すことができるのかを、マネジャー層がより深く理解することを目的に、今回の発表会を設けました。

冒頭では、OAGグループ代表の太田孝昭が「OAGがお客様の成長を支え、お客様にとって必要なさまざまなサービスを提供することで、インフラになっていこう」と呼びかけ、全体方針を共有しました。

続いて、今回の責任者でありOAGグループ取締役の田中繁明（OAGコンサルティング代表取締役社長）が「常に心がけなければならないのは、お客様の課題をいち早く発見して、お客様に最適なサポートを提供することです。グループの各社は、さまざまなサービスを展開しており、お客様の課題を共有できれば、グループ力を生かした的確な提案を行えます」と、グループの有機的な連携の必要性を訴えました。

各社の発表では、最初にOAG税理士法人代表社員の鶴井秀雄が「現場がグループの横連携を意識して動くことが大切です。お客様のニーズを掘り起こすことが、OAGグループの成長を促すことにもなります」と、現場力の向上がカギを握ることを指摘しました。

その後、グループ各社の各セグメントの代表者が自社の実績と課題、経営計画を発表しました。発表後にはマネジャー層から経営層に対しての質問時間を設け、グループ運営の活性化に向けて、質疑やディスカッションが続きました。

今回の経営計画発表会は、普段話すチャンスが少ない社員同士が、相互に理解を深めることができた貴重な機会にもなりました。その点では、シナジー効果を発揮するためのキックオフミーティングと呼ぶこともできそうです。

OAGは、これからもお客様のさまざまな課題を解決するために、グループの総力を結集してまいります。OAGグループの「サービス力の向上」＝「プラスワンのサポート」に、ぜひご期待ください。

OAG 税理士法人



代表社員 鶴井秀雄

OAG コンサルティング



代表取締役社長 田中繁明

OAG ビジコム



代表取締役社長 前田 強

OAG アウトソーシング



代表取締役社長 太田隆介

OAG 監査法人



社員 横塚大介

OAG 弁護士法人



代表弁護士 高橋和史



熱い発表会の後は懇親会で ホットなコミュニケーション & 飲ミネーション!



乾杯の音頭はOAGグループ取締役の田中繁明

熱のこもった発表会の後は、火照った心を癒やす懇親会!

ところが、人数の数倍も用意した缶ビールが次々と空に…。足りなくなることを心配する運営サイドをよそに、会場はクールダウンどころか、ますますヒートアップ?

私の Off-Time

「剣道と私」

(株)OAGコンサルティング 川井慎介

「剣道なんて、やめてやる!!」

指導者である父に向かって、こう言って反抗してから、はや24年。今では、すっかり剣道の魅力に取りつかれてしまいました。毎週土曜日の午前中から中野の実業団剣道チームで2~3時間ほど汗を流して、週4日のトレーニングも欠かしません。剣道を通じて年齢や職業、国籍を超えてたくさんの友人ができ、今ではその繋がりを大切にしたい、もっと強くなって、周囲の期待に応えたいという思いで稽古に励んでいます。

剣道には、相手との距離感や、いつ・どのタイミングで、どの技を出すのか、試合をいかにして支配するのか等々、的確な判断や対応が求められます。それが面白さの一つで、商談と似たところがあるとも感じています。

剣道を始めたきっかけは、父が元国体選手、剣道教室の先生だったからです。物心ついた時には、既に竹刀を握っていました。

父の指導は大変厳しく、内容は前時代的で、よくトイレに駆け込んで泣いていたことを今でも鮮明に覚えています。しかし、中学・高校に進学してから現在の恩師や同期と出会い、己の力を高めるという剣道の魅力とレギュラーの座を射止めることで、剣道への楽しみを見出すことができました。

大学では、3年時にチーム初の男女アベック優勝に主力メンバーとして貢献することができ、仲間と喜びを分かち合えたことが、今でも人生最大の感動の一つです。この時は、選手生命が危ぶまれる大ケガから復活して、マイノリティな「二刀流」にコンバートしたことも功を奏しました。

今後の目標は、東京都代表として毎年11月3日に行われている「全日本剣道選手権大会(天皇杯)」に出場することです。弟が3年前に出場していて、私も東京都予選を勝ち上がり、本選に出場して、弟と同じ景色を見たいと思っています。そのためにも、日々の鍛錬・稽古から力を抜くわけにはいきません。



本誌・OAGグループに対するご意見・ご要望をお寄せ下さい

私たちOAGグループ各社は、常にお客さまと共に歩み、最も信頼されるパートナーでありたいと考えております。徹頭徹尾、皆さまのお役に立つこと。それが、私たちの存立基盤です。本誌の記事に対するご意見、弊社グループ各社に対するご要望等、何でも結構です。ふと思いつかれたご提案でも構いません。お気軽にご連絡を頂ければ幸いです。

ご意見・ご要望はこちらへ → OAGグループグループ戦略部 広報 Tel.03-3237-7500

《今後のセミナー開催予定》

開催日	名称	会場
5月23日(木)	事業承継セミナー	OAG税理士法人7階セミナールーム(JR・地下鉄市ヶ谷駅徒歩3分)

※セミナーに関するお問い合わせは、広報誌担当(03-3237-7500)までご連絡ください(【有料】表示以外は無料です)



ソレイユの丘の菜の花畑



江ノ島



戦艦「三笠」

Photo by Yasuyoshi Wada

菜の花が満開と聞いて、三浦半島の「長井海の手公園」、通称「ソレイユの丘」を訪ねました。東京から京浜急行の終点「三崎口」駅まで1時間半、駅からバスで15分の所にあります。菜の花と相模湾と富士山のコラボが撮れるということでしたが、残念ながら富士山の姿は見え、しかし相模湾に浮かぶ江ノ島は撮ることができました。ウィークデイの風が冷たい日で閑散としていましたが、カメラ片手の中高年が菜の花を写真に収めていました。三浦半島は30年前に子供を連れて海水浴に来たことがあります、折角ですから軍港都市を見ようと、初めて京急「横須賀中央」駅に降り立ちました。まずは、世界三大記念艦の一つである「三笠」が保存されている三笠公園で、日露戦争で活躍した「三笠」の艦内を見学。その後、米軍と海上自衛隊の艦艇が見える港までブラブラ歩きました。米軍基地の街なので飲食店や雑貨店などには横文字の看板が目立ち、海岸線に丘陵が迫り、住居が所狭しと並んでいて、坂とトンネルが多い印象でした。横須賀グルメの定番・海軍カレーを食べる時間も無く、汐入駅から電車で飛び乗ったいつもの慌しい旅でした。

※ソレイユの丘：相模湾、富士山、湘南を望む岬に広がる「ソレイユの丘」。春は菜の花、秋はコスモスが咲き誇ります。広い園内では、四季を通じて野菜や果物の収穫体験もできます。ふれあい動物村では、カピバラやカンガルー等かわいい動物との触れ合いも楽しめます。

※三笠公園：京急「横須賀中央駅」から徒歩15分の所にある三笠公園は「水と光と音」がテーマで、音楽に合わせて舞う噴水や、ダイナミックな壁画、高さ18メートルのモニュメントなどが多数点在し、芸術と歴史を体感できます。戦艦「三笠」の後ろには、東京湾を行き交う船や猿島も望めます。

<編集後記>

いよいよ4月になり、新たな環境で、仕事に臨まれる方も多いのではないのでしょうか?…などといわれると、素直な私はリフレッシュした気持ちになったりするのですが、ここでふと疑問が浮かびます。「そういえば、1月にも同じようなことを言われた気がする。どうして1月に『新年』を迎えたのに、4月にまた『新年度』を迎えるのだ?」

調べてみると、これには日本の生活周期が関係していたようです。明治時代、日本の税収源の米は、農家が秋に収穫した後、現金化して納税していました。そのため、新年度のスタートを1月にするると予算編成が間に合わず、4月にしたのだとか。※諸説あります

会計期間ひとつ取っても、奥深い日本の文化・歴史が隠されています。ふとしたことから、先人の知恵に学んでいきたいですね。(あ)

発行 OAGグループ

OAG税理士法人／(株)OAGコンサルティング
(株)OAGビジコム／(株)OAGアウトソーシング
OAG監査法人／OAG弁護士法人

住所 東京都千代田区五番町6-2 ホームマートホライゾンビル
tel.03-3237-7500 / fax.03-3237-7510

発行人 OAGグループ 代表 太田孝昭

編集人 OAGグループ グループ戦略部 広報